

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 2 月 23 日

【評価実施概要】

事業所番号	3671200255
法人名	有限会社 敬友会
事業所名	グループホーム花乃苑石井
所在地	徳島県名西郡石井町藍畑字東覚円70-3 (電話) 088-674-0216

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 21 年 2 月 21 日

【情報提供票より】(平成 21 年 1 月 15 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤:13人、常勤換算:ひまわり7人、さくら6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り	
	1 階建ての	1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 50 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要 (平成 21 年 1 月 15 日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名		
要介護3	8 名	要介護4	7 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 78 歳	最低	51 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	恵美クリニック、田宮メンタルクリニック、吉積歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は静かな田園風景の中にある。近隣農家からの食材提供をきっかけにして地域との交流が図られている。管理者は経営者と共に利用者の立場に立って設備を見直し、トイレの改修やスロープ、洗濯物干し場の新設などを行っている。またモニタリングやアセスメントは職員と共に実施し、ハード・ソフト共に前向きに改善に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な課題である「運営に関する家族等意見の反映」、「職員を育てる取り組み」については改善されている。「運営推進会議を活かした取り組み」については改善に至っていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	経営者や管理者、職員は評価の意義を理解し、自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は3か月に1回開催し、家族や町職員、民生委員等が参加している。会議では事業所の行事や感染症対策の取り組み状況の報告、外部評価の改善課題についての意見交換等が行われているが、会議結果を職員に回覧し、情報を共有するまでには至っていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の要望等は意見箱の設置、外部の苦情相談窓口や事業所の担当職員を周知するなどして聞いている。また家族の来訪時や電話連絡時に話し合うなどして対応し、運営に活かしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣農家からの食材提供をきっかけにして地域との交流が図られている。自治会に加入し、地域活動や行事への参加も行われている。また近隣施設との交流もある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割を理解し、事業所独自の理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で理念を共有し、日々のサービス場面に活かすことができるよう確認しながら実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣農家からの食材提供をきっかけにして地域との交流が図られている。自治会に加入し、地域活動や行事への参加も行われている。また近隣施設との交流もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	経営者や管理者、職員は評価の意義を理解し、自己評価に取り組んでいる。前回の外部評価結果については運営推進会議等で検討し、徐々に改善に繋げている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3か月に1回開催し、家族や町職員、民生委員等が参加している。会議では事業所の行事や感染症対策の取り組み状況の報告、外部評価の改善課題についての意見交換等が行われているが、会議結果を職員に回覧し、情報を共有するまでには至っていない。	○	運営推進会議は2か月に1回、開催されたい。会議の内容は議事録を全職員に回覧し、確認印・サインを得るなどして共有されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の状況報告や運営の相談のために窓口を訪問するなどして交流を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は便りや電話連絡、来訪時の話し合い等で行い、金銭管理状況の確認もしてもらっている。しかし、職員の異動については報告していない。	○	職員の異動についても報告することが望ましい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望等は意見箱の設置、外部の苦情相談窓口や事業所の担当職員を周知するなどして聞いている。また家族の来訪時や電話連絡時に話し合うなどして対応し、運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に留めている。またやむを得ない離職等の場合は、引き継ぎ期間を十分にとり、利用者との馴染みの関係を築くなどして影響が出ないようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は計画を立てて受講し、内容は報告書を回覧して全職員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と行事の際に行き来するなどしている。また職員同士で意見交換する機会を設けるなど、交流しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には十分な期間を設けて、体験利用してもらったり本人・家族と相談するなどして徐々に馴染めるような関係づくりに取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に昔の遊びや料理作りを通して教え合ったり思いやりの言葉をかけ合ったりしながら支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の希望や意向を態度や表情などからくみ取り、一方的な押しつけにならないよう本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成は利用者の希望や家族の要望等を取り入れている。また毎日の日誌に職員の気付きを記録し、計画作成の際に参考にするなど関係者間の意見が集約されている。計画には本人・家族の確認印・サインがある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じて、また変化があった場合には随時、必要な関係者間で話し合っって見直し、新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、利用者や家族、かかりつけ医などと相談しながら通院や早期退院の受け入れなどの支援に取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医への受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態が変化した場合にはすぐに家族に報告するとともに、かかりつけ医など関係者間で相談し、重度化した場合や終末期のあり方についての方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員と秘密保持の誓約書を交わし、家庭内にも個人情報漏らさないよう研修等で徹底している。職員は利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事のスピードや入浴の頻度などは、利用者一人ひとりのペースや望んでいる暮らし方に合わせた支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に利用者もメニューづくりに参加するなど、食事を楽しめるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望や清潔保持の必要に応じた支援体制がとられている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作りや洗濯物たたみ、食事の準備など利用者の希望や残存能力を活かした役割や楽しみ事が個別に支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1回の外出行事や職員との買い物、薬の受け取りに同行してもらするなどし、利用者一人ひとりにあった個別支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者の行動から目を離さないケアを心がけ、開設当初から鍵をかけないケアに取り組んでいる。また近隣の方による見守り支援も得られている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、避難訓練を実施している。事業所内に緊急連絡網を掲示し、日常的に意識付けを行うなどしている。また日頃から地域の協力を得られるよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は旬の食材や利用者の希望を取り入れて作成している。栄養管理は摂取量を記録して協力医療機関と連携してバランスに配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く清潔であり、日当たりも良い。また雛飾りなどで季節感があり、落ち着いた雰囲気もある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや寝具など利用者が馴染みの品物を持ち込み、一人ひとりに応じて落ち着ける居室づくりを行っている。		